生活文化　広瀬宰平　ルイ・ラロック

3まいん

こあしたにせったいかんあと
小足谷接待館跡
さいこうかちょうたくあと
採鉱課長宅跡

緑に映える赤レンガの壁

小足谷接待館跡のレンガ塀

こあしたにせったいかん
小足谷接待館は、明治初期に設置されました。

小足谷(こあしたに)醸造所からさらに登っていくと、緑の木々の中から重厚な赤レンガの塀が姿を現します。

この接待館は、別子山中の中心街であった目出度町(めったまち)の住友新座敷が、もともとこの地にあった伊予屋支店(泉亭)跡に移動してきたものとされ、館内の敷地には、立派な日本庭園もあったといわれます。要人の宿泊や賓客(ひんきゃく)の接待、職員の懇親会などに使用されました。

採鉱課長宅跡のレンガ塀

住友雇用のフランス人鉱山技師ルイ・ラロックはここに宿泊し、別子銅山近代化に向けての計画書「別子鉱山目論見書(もくろみしょ)」を作成しました。尚、広瀬宰平も同宿していました。

採鉱課長宅は、接待館の奥に入った石段を登った高台にあり、現在も赤レンガ作りの塀が残されています。

採鉱課は、製錬課、運輸課とともに別子鉱業所(当時)の中でも多数の職員を抱え、別子銅山経営の中核をなす重要な組織であり、それを統括していたのが採鉱課長でした。

現在は、赤レンガ塀のみが残されており、館跡には植林がなされています。

これな～んだ？

これは何だと思いますか？

採鉱課長宅跡に設置されています。(ヒント・水)

答えは、裏にあります。

http://nmh.hearts.ne.jp/k/gaidobook/003/index.htm